

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	経営研究所
評価基準 7	教育研究等環境
点検・評価項目(4)	7-4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
	研究所の運営体制の適切性
	研究会、セミナー、シンポジウム等の開催および学術雑誌の刊行状況
点検・評価項目(6)	7-6 教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

7-4	<p>研究所の基本方針や予算など重要事項については運営委員会で審議し、事業計画に関する事項に関しては、研究部会で審議決定されるとの「経営研究所規程」に従い、2013 年度は運営委員会および研究部会が定期的に開催（2013 年度は 5 回開催）され、研究所の運営体制は適切に行われたといえる。</p> <p>研究活動に関しては、当年度の事業計画に従い、研究会は平年通り開催され、研究成果として、リサーチペーパー 3 点、研究叢書 1 冊を刊行し、研究活動は一定の成果を示したといえる。また、研究所の研究・教育の活動状況については「大東文化大学経営研究所所報」で報告しており、これをホームページ（HP）上にて公表し、研究成果を社会へ還元するような努力をしている。</p> <p>また、2013 年度のシンポジウムは 11 月 9 日（土）に、大東文化大学経営研究所・大学院経営学研究科主催/大東文化大学経営学部共催/大東文化大学経営学部経営学会協賛/板橋区・東京商工会議所板橋支部・板橋区中小企業診断士会後援のもとに、大東文化大学 90 周年記念講演会として「アジア市場と日本企業の国際連携戦略」というテーマで開催された。（なお、詳細は添付資料で確認のこと）今回のシンポジウムの開催により「国際交流事業」の展開と次年度以降の「地域連携事業」の推進に繋がる大きな成果が得られたといえる。</p>
7-6	教育研究等の責任体制に関しては、委員長と部会長の責任体制のもとで、運営委員会および研究部会の承認を経て定期的に検証を行っている。

【効果が上がっている事項】

7-4	今年度の研究・教育活動の一環として開催されたシンポジウムでは、国際交流事業の展開と今後の研究プロジェクトの推進に繋がる大きな成果が得られた。また、HP の運営業者を変更することで、迅速にかつ効果的な情報発信が可能と期待できる。
7-6	

【改善すべき事項】

7-4	
7-6	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

シンポジウムのプログラム、「経営研究所規程」など
《指標データ》
なし

III 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	7-4 研究・教育・社会貢献活動の推進と更なる活性化	各年の研究・教育成果物（リサーチペーパー等）の継続的な刊行（5～6 点）とシンポジウムや講演会の定期的な開催と地域との交流事業のさらなる充実	→					
14 年度 目標	7-4 研究・教育活動の推進	研究会・講演会・シンポジウムの開催やリサーチペーパーと叢書の刊行事業の推進	→	A				